

4日目 7月16日

会 場： 松江市営野球場

第1試合	～2回戦～ (7回コールド)																			
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E		
明 誠	1	0	0	0	1	0	0									2	6	1		
立正大淞南	1	0	3	0	5	0	X									9	5	0		
(投手-捕手)																				
・ (明)	佐々本→大前 - 伊藤龍																			
・ (淞)	持田→山下→井上 - 谷川																			
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)							
・ (明)													藤原							
・ (淞)	田中												今田							
(審判) [球審]	森島			〔一塁〕 本田				〔二塁〕 三宅				〔三塁〕 筑後								
(チーム成績)																				
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守	備	失	暴	ボ	逸	打	妨
(明)	30	6	2	0	0	1	9	3	0	0	7	0			1	0	0	0	0	0
(淞)	33	5	9	1	0	1	3	10	0	6	6	2			0	0	0	0	0	0

「県内無敗王者の立正大淞南、7回コールド発進！」

大会4日目松江会場の第1試合には、第1シード立正大淞南が登場した。立正大淞南は秋春の県大会に加え、松江地区大会、山陰大会を制し、島根県内無敗を誇る今世代の絶対王者だ。対する明誠も、9回2死から逆転を許し惜しくも準優勝ではあったが強豪ひしめく石見地区大会準優勝という実績のある好カードだ。

試合は両者先発投手の立ち上がりを攻める。1回表、明誠は2本の安打と四球で1死満塁とし、5番伊藤龍の内野ゴロの間に3塁走者が生還し先制点を奪う。その裏、立正大淞南も2死3塁から4番今田がセンター前に落とす適時打で直後に同点に追いつく。3回裏、立正大淞南は2個の四死球と盗塁で2死1・2塁とし、4番今田がレフトスタンドへ運び本塁打で3点を追加し優位にたった。

反撃したい明誠は、5回表、9番藤原が立正大淞南の2番手山下の変化球を捉えレフトへの本塁打で1点返した。しかし、ここから一気に立正大淞南のペースとなった。直後の5回裏、明誠先発の佐々本が制球を乱し、4連続四球含む3つの押し出し、7番坂川の適時打で一気に5点を追加し試合を決めた。最後は、春季大会で好投を見せた立正大淞南3番手の井上が明誠打線を抑え7回コールドで立正大淞南が3回戦に駒を進めた。

